

令和四年度卒業論文題目 (氏名 論文題目)

【卒業論文】

〔藤本ゼミ〕 日本語学

藤田 美穂 「オネエことば」の特徴―「女ことば」

「男ことば」との比較を通して―

山中 結有

洒落本『傾城買杓子規』における江戸語の取り入れ方―『通言総籙』や同時

代江戸作品との比較を中心に―

〔灰谷ゼミ〕

運上 佳歩

北海道方言における反応要求表現の機能と用法についての研究

田中 涼風

メッセージアプリの言語コミュニケーションにみられる談話構成機能についての研究

宮崎方言における接続表現「ケン」の意味・機能と変化についての研究

長友 綾香

『蜻蛉日記』の臍化表現について

〔宮谷ゼミ〕

澤田 明希

藤原伊周の人物像―『大鏡』『枕草子』

『栄花物語』を通して―

森 茜

『新猿楽記』における文学的趣向の考

察

〔吉田ゼミ〕 近世文学

寺田 百合花 池田東籙『復讐小史三傑奇譚』―翻刻と解題―

松尾 史織 天風坊鰻老人『田村物語』―翻刻と解題―

水原 幸乃 畠山保躬『絵本名月夜話』―翻刻と解題―

〔柴ゼミ〕 近現代文学

石崎 才輝 インターネット上におけるリアルタイム・相互作用的に生成する怪異伝承―「きさらぎ駅」を例に―

角屋 瑛蘭 ブーン系小説に関する基本的考察―視覚要素としてのアスキーアートと〈共有〉される小説の構造―

川崎 綾香 夏目漱石『坊っちゃん』におけるマドンナ像の乖離―言説化されたマドンナと停車場のマドンナ―

木田 郁海 芥川龍之介『羅生門』論―境界としての「羅生門」とその機能―

高見 六花 吉原幸子の〈死〉と夢の世界―『夢

あるひは…』を中心に―

出口 裕平 あの夕暮れを追うようにして

長井 菜月 梶井基次郎「檸檬」論―その詩的要素

に関する考察―

平里 瞳子 宮沢賢治『よだかの星』に見える宗教

的要素―享受の形態による読みの多様

性―

〔原ゼミ〕近現代文学 創作

岡山 瑞葵 芥川龍之介「魔術」論―比較から見え

てくること―

小川 歩希 岡本かの子『鯨』論―ともよと彼女を

取り巻くものについて―

中川 平葵 村上春樹『風の歌を聴け』論―英訳版

との比較をめぐる―

福永 辰徳 泉鏡花「化鳥」論―母親からの脱却

の物語としての「化鳥」―

三好 伶奈 (創作)「風の葉」

山越 木乃花 太宰治「女の決闘」論―女性独白体か

ら女装独白体へ―

山田 彩稚 泉鏡花「夜叉ヶ池」再評価に向けて

―フェミニズム批評の試み―

山田 菜月 梅崎春生「蜆」論―俯瞰的に読み直

す―

〔藤井ゼミ〕民俗学 伝承文学

高杉 遊葉 奪衣婆の持つ女性性の効果

中島 舞花 翻刻『二十四孝』

名護 峻河 袋中良定『寤寐集』の研究―記述内容

と資料特性について―

平田 沙帆 壱岐島に伝わる昔話の特徴について

―『壱岐島昔話集』の研究を通して―

三宅 遥 『御津郡昔話集』の研究

〔信木ゼミ〕国語教育学

大野 恵理 中学校国語教科書における言語活動の

実際

柴山 滉 書き手を対象化する読みの学習活動

瀬良 寧々 夏目漱石「こころ」の教材的価値の生

成―教科書、教材論、授業実践から―

榎原 帝人 古文教育における「読むこと」から「書

くこと」への関連指導

増田 千尋 中学校国語科における語彙指導

〔光原ゼミ〕創作

青山 愛 プリズム

稲垣 透也 二十三時

柏原 早希 ヘイト

坂本 若菜 水辺の陸花に日が当たる

竹内 万葉
野上 紗希
野島 伶音
橋本 彩弥加
畑本 ケンジ
平山 俊輔
山下 恭佳
吉泉 紫野

三千世界の鴉と朝を
仕事辞めないの？
眼球交換サービス
のぞみ
僕の神様
空が落ちたとしても
飴々からから
卒業